

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 2 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2011～2015

課題番号：23320061

研究課題名(和文)トランスアトランティックな視座からの「アメリカ文学」概念の成立と変容

研究課題名(英文)A Study of Transatlantic Relationships in the Formation of 'American Literature'

研究代表者

大橋 洋一(Ohashi, Yoichi)

東京大学・人文社会系研究科・教授

研究者番号：20126014

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では「アメリカ文学」概念の成立過程をトランスアトランティックな視点から再考察した。「アメリカ文学」がいわゆる「他なる国民文学」として相対化され対象化されていくプロセスとその構造を、英米を始めとする各国の文化交流の複雑な関係を通して明らかにしようとするものである。個別作家間の交渉や各種メディアに表れた言説を収集、分析するという実証的な資料研究によって、英米の文化的構造を検証し、その複雑な関係と構造に対する十分な理解・認識を通して「アメリカ文学」及び「イギリス文学」という「概念」を再検証・再構築した。

研究成果の概要(英文)：This project reexamines the historical process of 'American literature' and investigates the transatlantic relationship that has been surrounding its process. Our attempt is to review the process by closely looking into the cultural relationship and the structure of literary discourse that have been historically made among those transatlantic countries. We particularly focus on the way American writers identified and differentiated the other, by means of a close analysis of the primary source that has been widely collected through our field work.

研究分野：英文学

キーワード：文学 英米交流 出版 西洋史 比較文化

### 1. 研究開始当初の背景

英語圏文学における「アメリカ文学」という「概念」の成立には 19 世紀半ばの「アメリカン・ルネサンス」及び 20 世紀の「大戦間文学」という大きな文学的潮流が寄与しているという一つの見方がある。例えば、「アメリカン・ルネサンス」の作家たちについてはイギリスの作家 D・H・ロレンスが重要な評論を書いており、また「大戦間文学」に関してはモダニズムという国際的な運動との関連性が理解され、つまり当時個々の作家や批評家が意識的な文化交流を築く中、イギリスやアイルランドなどの英語圏文学との関係や運動が「アメリカ文学」という「概念」を成立させたという論理である。しかし、こうしたトランスアトランティックな関係性や文化的構造関係は、十分な歴史的検証と実証的研究を経ずにいた。むしろ、各国の文学史の流れの中で諸々の作家研究が個別化し、精緻化されることで、「アメリカ文学」ないし「イギリス文学」という枠組がかえって自明のものとしてしまうという皮肉な逆説が生み出されてしまった。しかし、例えばイギリス文学について、それが「イギリス文学」になりえたのは、アメリカ文学がイギリス文学からの「独立を果たした」からと言うより、「アメリカ文学」の成立こそが「イギリス文学」の成立をかえって可能にさせたのかもしれない。19 世紀から 20 世紀にかけてのトランスアトランティックな、かつその緊密な文化的構造を鑑みれば、各国の文学がそれぞれの国民国家の内部で単線的に発展したという認識を一度離れる必要があると考えられる。従って、「アメリカ文学」、「イギリス文学」という「概念」についてより重層的かつ立体的な理解や分析が必要とされた。

### 2. 研究の目的

上記の問題意識に基づき、本研究の目的は、実証的な資料研究によって英米の文化交流の複雑さを明らかにすること、及び、その複雑さに関する十分な理解・認識を通して「イギリス文学」、「アメリカ文学」という「概念」を再検証・再構築することにある。

(1) 本研究のアプローチは、まずは英米の文学・文化を代表する作家や現象を対象とする。それらに共通、あるいは相互に関連する項目を整理し、議論することで、それらの文化交流を具体的に実証する一次・二次資料を収集する。その上で各国の文学の成立について重層かつ立体的に検証・分析しつつ、さらに各国の文学の独自性についても改めて再検証する。本研究の取る姿勢は、例えば、19 世紀の「イギリス文学」が 20 世紀のアメリカ文学にどのような「影響」を与えたのか、また、19 世紀の「アメリカ文学」が 20 世紀のイギリス文学にどのような「影響」を与えたのかといった、ある「ねじれ」を考察することが含まれる。また、このような姿勢は英

米文学・文化の包括的研究を再検証するものでもあり、近代の「文学研究」の枠組を構築した「英米的」思考の展開過程を実証的に跡づけることにもなる。

(2) 本研究の独創性は比較文学的な考察にとどまらない。「アメリカ文学」ないし「イギリス文学」が、個別に成立・発展する経緯やその相互の関連性を追うのではなく、相手国の文学との差異化によって成立・発展したプロセスや構造を、共同研究によってのみ可能となる議論を通して整理し、分析しようとする。また、相互理解にはらむ「ねじれ」の構造を明らかにし、一方でそれが自国文化の単純な肯定や、異国文化に対するステレオタイプ化をもたらすことになった過程を、現在残されている資料を広範に調査することによって、実証的に跡づける。

### 3. 研究の方法

まず、各研究分担者に割り振られた分野(国と時代)について、代表的な作家・作品・ジャンルについて個別的な分析を行い、それらを統括した上で各国の文学の成立を検証するために必要な事項を整理する。また、それらを連結する上で欠かせない文学資料を収集する。研究書、学術誌はもとより、雑誌批評や手紙・日記などの一次資料もできるだけ収集し、必要なものは現地での文献調査を行う。収集した資料を分析し、各国の文学成立の過程を明らかにする統合的な資料体系の構築を目指す。

各研究分担者の研究分野については以下の通りである。演劇専攻ならびに批評理論専攻である大橋は、シェイクスピア作品にあらわれるアメリカ表象について、また、シェイクスピア作品が映画作品を含むアメリカ文学にどのような形で表れているかについて、まだ十分に注目されていない事象を取り上げて考察する。アメリカ文学専攻の平石は、平成 22 年に上梓した『アメリカ文学史』(松柏社)を補完する作業を始めとして、従来の伝統的なアメリカ文学史において無視ないし軽視されてきた、主に 19 世紀の作家に関する包括的な研究を行う。イギリス文学専攻の高橋は、スコットランドやアイルランドなど、英国内のいわば「辺境」の文学について考察し、アメリカとの文化的交流についての資料を収集しながら、アメリカを中心とする文学批評の潮流とイギリス文学の関係について研究する。英米詩専攻の阿部は、ホイットマン受容のイギリスにおける展開や、ナサニエル・ホーソーン作品における語り进行分析などして、19 世紀から 20 世紀にかけての英米詩におけるトランスアトランティックな影響関係を調査する。アメリカ文学専攻の諏訪部は、探偵小説・犯罪小説といった「アメリカ的」なジャンルがイギリスの作家に与えた影響について、またイギリスでの隆盛と

の差異化を図った 20 世紀におけるプロセスについて研究する。イギリス文学専攻の侘美は、19 世紀中葉に始まるアメリカにおけるスピリチュアリズムの発展とそれが文学に与えた影響の、イギリスにおける受容と展開を調査研究する。特に、イギリスの「幽霊小説」における「イギリスらしさ」の構築と、スピリチュアリズムによってもたらされたアメリカ的な共同体や家族にまつわる文化的なイメージとの関係性を検証する。

#### 4. 研究成果

実証的な包括的研究が行われ、イギリス、アメリカ、さらにはアイルランド、スコットランド、ラテン・アメリカなどとの文化交流や文化的構造が各文学の成立に緊密に連携し合っているということが理解された。以下が各研究分担者の研究成果である。膨大な資料と報告書を吟味することが必要とされ、研究分担者の個別的な発信と公開が主たる成果の公表方法であり、また資料の網羅的なデータベースは技術的な問題も見出され、今後の公開を検討している。

(1) 研究代表者である大橋は、シェイクスピアがアメリカ文化及びラテン・アメリカ文化に与えている影響に関して考察し、またアメリカ映画におけるシェイクスピアの扱いに関して、クィア理論やエコ・クリティシズムの理論等を援用しつつ具体的な分析を行った。その他、「アメリカ」的全体主義に抵抗する劇作家ハロルド・ピンターの戯曲も考察した。また、テリー・イーグルトン著『アメリカ的、イギリス的』(Across the Pond(2013)大橋洋一他訳(河出書房 2014))を刊行し、アメリカ像に関する文学と文化面に関する有意義な洞察を一般読者に向けて提供した。一般向けではあるが、独創的な考察を満載する本書は本研究にとっても有意義かつ有効な視点・方法論の宝庫であり、その洞察を応用・深化させることで、理論的・方法論的にみてきわめて独創的な研究成果を期待できるところまでできたが、研究発表準備中のところで研究計画が終了した。

(2) 研究分担者である平石は、エドガー・アラン・ポーや、大戦間の日系アメリカ作家トシオ・モリなど、従来の伝統的なアメリカ文学史においては軽視されがちであった作家に関する考察を深め、アメリカが自国文化を普遍的なものと喧伝するようになった 1940 年代という歴史的コンテクストについて考察を深めた。また、アメリカの男性像・女性像の形成、アメリカ的異性愛イデオロギーの誕生といったテーマについて、イギリスとの比較から考察し、19 世紀にとどまらず、20 世紀までを対象とする幅広い研究を実施し、「アメリカ文学」の成立と受容の問題について貢献的な役割を果たした。

(3) 研究分担者である高橋は、*The Heyday of Sir Walter Scott* (Donald Davie, 1961) 以来、ウォルター・スコットの歴史小説がロシアやアメリカに多大な影響を与えたことが明らかになっていることを踏まえ、特にフェニモア・クーパーをはじめとするアメリカのいわゆる「レザー stocking」小説への影響を意識しつつ、スコットの歴史小説の基本的構造を考察した。また、一方で、主要なイギリス作家を取り上げながら、「学ぶ/教える」対象としての英文学、すなわち「制度」としての「英文学」に関する考察も行った。

(4) 研究分担者である阿部の研究は主に語りとポライトネスとの関係を中心に行われた。「ナサニエル・ホーソーン『七破風の屋敷』の気遣う語り手」(西谷拓哉・成田雅彦編『アメリカン・ルネサンス 批評の新生』開文社 所収)では、語り手の登場人物に対する「配慮」の表象をめぐって英米間でどのような文化的な「時差」が生じたかを検証し、「ホイットマンの音量調節」(竹内勝徳・高橋勤編『環大西洋の想像力 越境するアメリカン・ルネサンス文学』彩流社 所収)では、語りの「声」の大きさについて、これもトランスアトランティックな視点をまじえて考察している。これらの考察を元に 2015 年には単著として『善意と悪意の英文学史』(東京大学出版会)を刊行し、善意の表出を基盤にして隆盛した小説というジャンルが、その後、時を経て、またトランスアトランティックに舞台を移す中で、悪意や無愛想といった要素をどのようにとりこんだかについて検討した。

(5) 研究分担者である諏訪部の研究は主として 20 世紀のアメリカ小説の展開を、純文学と大衆文学の両方において、イギリス小説との差異化をはかるうとする企図として再考することに向けられた。純文学の領域では、代表的なアメリカ作家達が意識的に「反リアリズム」=「ロマンス」の形式を採用していたことが探究され、大衆文学の領域では、大戦間にイギリスで流行した探偵小説が、アメリカにおいてはハードボイルド小説からノワール小説という形で発展していったことを論証した。「アメリカ文学」概念の展開に関しては、『アメリカ文学入門』(三修社)を編纂することによってその全体像を示した。また、平成 28 年度秋には本プロジェクトの総括として『アメリカ小説をさがして』と題される研究書を松柏社より刊行予定である。

(6) 研究分担者である侘美は、19 世紀の中葉にイギリスで人気があった、いわゆる「幽霊小説」に関する包括的な研究を行った。イギリスの「幽霊小説」とゴシック文学の伝統を整理しつつ、その伝統観と 19 世紀後期に成立する「幽霊小説」との大きな断絶を確認

した上で、スピリチュアリズムなどのアメリカにおける「超自然」に関する議論や、それに伴う文化的イメージがそこにどのように関わり得るのかということ考察した。一方で、「幽霊小説」におけるフォークロアの扱いについて、ブロンテやギaskellなどの作家の作品を取り上げて考察するうちに、アイルランドやスコットランドのフォークロア、さらにはアメリカのフォークロアにおける「幽霊」の身体的表象にも研究のフォーカスを当てるようになり、英国で資料収集に取り組んだ。それらの文学的交流や関係性について資料を整理中である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計20件)

大橋洋一、ボヘミアの海岸 シェイクスピアと中欧、れにくさ、査読無、6巻、2016、245-62

大橋洋一、裏切りのサークル ハロルド・ピンター『風景』論、現代英語圏演劇、査読無、5巻、2015、31-41

平石貴樹、フォークナーと私、英米文学、査読無、75巻、2015、49-69

大橋洋一、もうひとつの『ゴドーを待ちながら』 ハロルド・ピンター『部屋』覚書き、現代英語圏演劇、査読無、1巻、2014、37-43

大橋洋一、エアリエルとキャリバン ラテン・アメリカにおけるシェイクスピア的人物の文化史への覚書、れにくさ、査読無、4巻、2013、58-73

平石貴樹、『アメリカ文学史』のあとで考えたこと、北海道アメリカ文学、査読無、29巻、2013、4-22

阿部公彦、ウォレス・ステイヴンズの無愛想(上・下)、Web 英語青年、査読無、2月号・3月号、2013、2-14、2-19

Koichi Suwabe、Faulkner's Black and White Oedipal Drama in "The Fire and the Hearth"、The Japanese Journal of American Studies、査読有、23巻、2012、97-116

阿部公彦、ナサニエル・ホーソン『七破風の家』の気遣う語り手(上・下)、Web 英語青年、査読無、8月号・9月号、2011、2-11、2-13

[学会発表](計22件)

侘美真理、『嵐が丘』と『アグネス・グレ

イ』における動物と「自然」の表象、日本ブロンテ協会、2015年10月17日、立正大学(東京都・品川区)

平石貴樹、諏訪部浩一、フォークナー研究の現在と未来、日本ウィリアム・フォークナー協会、2015年10月9日、龍谷大学(京都府・京都市)

高橋和久、阿部公彦、文学史を書くこと、文学史を教えること、日本英文学会北海道支部、2014年10月25日、北海道武蔵女子短期大学(北海道・札幌市)

高橋和久、英文学から何を学ぶか ディケンズ『荒涼館』を一例に、早稲田大学英文学会・英語英文学会(招待講演)、2013年12月14日、早稲田大学(東京都・新宿区)

平石貴樹、日系アメリカ作家トシオ・モリの世界、東大文学部集英社公開講座、2013年11月16日、東京大学(東京都・文京区)

諏訪部浩一、黒い誘惑 フォークナー、ハメット、ノワール、日本アメリカ文学会東京支部、2013年9月28日、慶応義塾大学(東京都・港区)

阿部公彦、オルソンとイギリス J・H・プリンを中心に、日本アメリカ文学会東京支部、2013年6月29日、慶応義塾大学(東京都・港区)

阿部公彦、言いたいことのない詩人 ウォレス・ステイヴンズの後期作品、日本アメリカ文学会第50回全国大会、2011年10月08日、関西大学(大阪府・吹田市)

高橋和久、英文学を学ぶ/教えること ハーディを經由した詩人を經由して、日本ハーディ協会第55回大会特別講演(招待講演)、2012年10月13日、武庫川女子大学(兵庫県・西宮市)

平石貴樹、分析力・洞察力・想像力 エドガー・アラン・ポーをめぐって、第115回東京大学公開講座「想像力」、2012年04月14日、東京大学(東京都・文京区)

[図書](計21件)

阿部公彦、東京大学出版会、善意と悪意の英文学史 語り手は読者をどのように愛してきたか、2015、286+10+ix

侘美真理 他、大阪教育図書、ブロンテと19世紀イギリス、2015、247-60

諏訪部浩一、研究社、ノワール文学講義、2014、204

侘美真理 他、大阪教育図書、イギリス文学と文化のエートスとコンストラクション (石田久教授喜寿記念論文集)、2014、195-204

諏訪部浩一 他、三修社、アメリカ文学入門、2013、378

阿部公彦 他、開文社、アメリカン・ルネサンス 批評の新生(西谷拓哉・成田雅彦編) 2013、325-44

諏訪部浩一 他、金星堂、アメリカン・ロマンスの系譜形成 ホーソンからオジックまで(サウンディングズ英語英米文学会編) 2012、35-48

阿部公彦 他、彩流社、環大西洋の想像力越境するアメリカン・ルネサンス文学(竹内勝徳・高橋勤編) 2012、239-60

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

大橋 洋一(OHASHI, Yoichi)  
東京大学・人文社会系研究科・教授  
研究者番号：20126014

### (2) 研究分担者

平石 貴樹(HIRAIISHI, Takaki)  
東京大学・人文社会系研究科・名誉教授  
研究者番号：10133323

高橋 和久(TAKAHASHI, Kazuhisa)  
東京大学・人文社会系研究科・名誉教授  
研究者番号：10108102

阿部 公彦(ABE, Masahiko)  
東京大学・人文社会系研究科・准教授  
研究者番号：30242077

諏訪部 浩一(SUWABE, Koichi)  
東京大学・人文社会系研究科・准教授  
研究者番号：60376845

侘美 真理(TAKUMI, Mari)  
東京藝術大学・音楽学部・准教授  
研究者番号：60596807

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：